

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ギフトリゾート(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な職員が多い。	事業所で過ごす時間は全てが療育の時間ということを意識しながら、遊びの中でもたくさんの療育できる場面がある事を理解して療育にあたっている職員が多い。	全ての職員が同じ思いで支援にあたれるように、これからも職員間のコミュニケーションを大切にしていく。
2	モンテッソーリ教具を取り入れたり、一週間ごとの製作や集団ゲーム等のプログラムを組んだりして活動プログラムが固定化しないようにしている。	子どもたちの成長に合わせた活動を取り入れることで、子どもたちは楽しみながら活動を行い、職員は意図的に個々に合わせた療育を行えている。	今後も子どもたちが楽しんで取り組める活動を計画していくようにする。
3	日頃から職員間で子どもたちの様子を伝え合い、情報共有や共通理解をしながら支援にあたっている。	全ての職員が話し合いの場に参加できるわけではないので連絡ノートを作り、出勤してきた日にはそのノートに目を通してもらうことを徹底しながら共通理解に努めている。	ノートだけでは細かいニュアンスの部分が伝わらないこともあるので、口頭でも伝えながら引き続き共通理解を行い、支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎月一回、非常時対応の訓練を行なっているが保護者の方への周知が徹底できていなかった。	訓練の実施の見える化ができていなかった。	今後、保護者との連絡ツールをアプリに移行するのでその際に写真で伝えたり、送迎時に話しをしたりしていく。
2	作業療法士や理学療法士などの専門職職員が配置されていない。	専門職による支援も望ましいところではあるが、現段階では職員を確保できていない。	専門職の職員が確保できるまでは現職員が持つスキルをフル活用しながら支援を行っていく。
3	地域の方との交流があまりできていない。	夏祭りなどは地域の方にお知らせして交流の機会を持っているが、普段からというのは難しい面もある。	今後、保護者の方のニーズなどあれば、考えていきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ギフトリゾート(児童発達支援)		R7 年 3 月 20 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15		・人数や活動に応じて個室やパーテーションで区切って安全に過ごせるようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15		・基準以上の配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	1	・視覚支援（絵カード、具体物）を行った り、個室での対応もできるように部屋を用意したりしている。 ・絵カードや音の合図で子どもに分かりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		・整理整頓を心掛け毎日の清掃や食事前後の消毒、手洗いを徹底している。 ・活動内容によって環境空間を変えて落ち着いて活動できるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		・指導室以外の部屋の活用も行なっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	1	・毎朝の朝礼、職員間の連絡ノートなどを活用している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		・保護者からの要望があればすぐに共有するようにしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		・気付いた点を話し合い、意見交換を行って業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	3		・第三者評価は受けていないので今後考えたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		・定期的に研修会を行っている。 ・外部の研修会にも参加している。 ・子どもに寄り添って療育できるように知識を広める努力もしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	2		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15		・保護者から目標の聞き取りを行い、保護者の思いも考慮した支援計画にしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	3	・検討会の場を設け、支援の方向性を話し合い療育にあたっている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	2		・職員全員にしっかりと支援計画が共有されるようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		・それぞれの子どもに合わせた支援方法を実践して変化点や成長点を共有しながら課題を整理している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		・全体で話しながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		・季節に合わせた製作、遊び、行事など一週間毎の活動内容の工夫をしたり、個々に合わせたSSTプリントを使用したりしている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15		・個々の発達や課題に合わせた活動や集団で行う活動を計画し取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		・子どもの状態や留意点を職員間で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	1	・職員間でお互いの気付きを話し合い活動に活かしていけるように共有している。	・必ずではないが（退勤時間が違うため）気付いた点はその場にいる職員や翌日の朝礼で話している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		・毎日、利用児一人一人の記録を取り、成長や改善点を検討している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14		・6ヶ月毎のモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15		・療育にあたっている職員が参加して、会議の内容は持ち帰り職員間で共有している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14	1		・利用者が通っているすべての園と相互理解を図れているかと言われれば難しいところもあるが、今後努力したい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	12	3		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	11		・まだ感染症を心配される機関も多く積極的にはできない状況がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15		・本日の様子や気付いたことは送迎時や連絡帳で伝え、家庭での様子などを共有し共通理解している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	2	・保護者の困り感を共有し、関わり方や家庭での取り組み方を共有している。	・家族支援は積極的に行っているが、プログラムとしての取り組みは今後考えたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15		・半年に一回の支援計画の見直しの時にお話をさせていただいている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		・連絡ノートや保護者との会話で対応方法や工夫について相談に応じている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	2	・毎月一回のお茶会を設け気軽に保護者同士の交流を図り、その中でも相談支援を行っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		・保護者からの相談には迅速に適切に対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15		・毎月のお便りや行事予定表、SNS、連絡帳などで日々の様子を知らせている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15		・研修を行い、周知徹底している。 ・SNSに写真をアップする時は顔や名前に十分配慮をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	2	・夏まつりなど広告し地域の方にも参加してもらっている。	・日頃から近所の方に事業所内でお話をする機会は設けています。 ・招待という形で広く案内しているのは「夏祭り」だけのため、今後考えたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15		・定期的に火災、風水害、地震、防犯などの訓練を行い、スムーズに安全に実施できるように努めている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15		・毎月、曜日を変えて避難訓練を行なっている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	3		・現在除去が必要な利用者がいないが対応は考えている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	2		・保護者様への周知までは至っていないのかもしれないので、お知らせしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	3		・事例集の作成まではしていなかったので準備したいと思う。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		・定期的に研修会を行い、周知している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ギフトリゾート(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日 ～ 2025年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な職員が多い。	事業所で過ごす時間は全てが療育の時間ということを意識しながら、遊びの中でもたくさんの療育できる場面がある事を理解して療育にあたっている職員が多い。	全ての職員が同じ思いで支援にあたれるように、これからも職員間のコミュニケーションを大切にしていく。
2	一週間ごとの製作や集団ゲーム等のプログラムを組んだり、公園や公共施設へのお出かけなどを取り入れ、活動プログラムが固定化しないようにしている。	子どもたちの成長に合わせた活動を取り入れることで、子どもたちは楽しみながら活動を行い、職員は意図的に個々に合わせた療育を行えている。また、外での活動は社会性を身につける良い機会だと思っている。	今後も活動プログラムが固定しないように、そして楽しんで子どもたちが通えるような活動を計画していく。
3	日頃から職員間で子どもたちの様子を伝え合い、情報共有や共通理解をしながら支援にあたっている。	全ての職員が話し合いの場に参加できるわけではないので連絡ノートを作り、出勤してきた日にはそのノートに目を通してもらうことを徹底しながら共通理解に努めている。	ノートだけでは細かいニュアンスの部分が伝わらないこともあるので、口頭でも伝えながら引き続き共通理解を行い、支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎月一回、非常時対応の訓練を行なっているが保護者の方への周知が徹底できていなかった。	訓練の実施の見える化ができていなかった。	今後、保護者との連絡ツールをアプリに移行するのでその際に写真で伝えたり、送迎時に話しをしたりして周知して頂けるように努力していく。
2	多機能の施設ということもあり、年齢に開きがあり、支援の幅が広がっている。	縦割りのいいところもたくさんあるが、集団での活動で年齢に合わせた支援の幅が広がり過ぎている所も見られる。	4月より、2号店目がオープンするのでそちらの方で小学生対象に支援できるように活動プログラムを組んで準備している。
3	地域の方との交流があまりできていない。	夏祭りなどは地域の方にお知らせして交流の機会を持っているが、普段からというのは難しい面もある。	今後、保護者の方のニーズなどあれば、考えていきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ギフトリゾート(放課後等デイサービス)		R7 年 3 月 20日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15		・パーティションで部屋を分けて人数に合わせて安全に遊びの空間と学習空間が使用できるようになっている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	15			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	2	・写真やイラスト、音の合図で本人に分かりやすく対応している。	・完全なバリアフリーではないが、該当者がいない為そのままである。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		・毎日清掃を行い、整理整頓を心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		・指導室以外の部屋の活用も行なっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	13	1	・毎朝の朝礼、連絡ノート（職員用）などを活用している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		・年に一度のアンケートを実施し、評価を元に業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		・気付いた点を話し合い、意見交換を行なって業務改善を行なっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2		・第三者評価を行ってないが、今後考えたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		・定期的に研修会が行われている。 ・外部の研修会にも参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	2		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	15		・保護者からの目標の聞き取りを行い、保護者の思いを考慮した支援計画にしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	3	・検討会の場を設け、支援の方向性を話し合い療育にあたっている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	2		・全員にしっかりと支援計画が共有されるようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		・全体で話し合いしながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		・製作や活動などバラエティーに富んだたくさんの活動がじゅんびされている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	15		・個々の発達課題に合わせた活動と集団で行う活動を計画し取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		・子どもの状態や留意点を職員間で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14		・職員間で気付いた点、疑問点などは共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		・気づいたことは記録に残し、職員間で成長や改善点を話し合うようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14		・半年ごとにモニタリングを必ず行い見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	15			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15		・子どもたちが自分で「選択する」ことを尊重している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	15			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		・卒業生がまだいないが、今後情報提供をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	9		・まだ感染症の心配される期間も多いがあり、他施設の子どもとの交流はせっきよには行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	6		・今後、機会を設けて参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15		・送迎時や連絡帳を利用して保護者と共通理解できるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	1	・トレーニングとは打ち出していないが保護者個々に話を聞き助言している。	・今後積極的に取り入れたい。
関	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		・契約時にきちんと説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15		・半年に一回の支援計画の見直しの時にお話をさせていただいている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	15			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		・毎月一回保護者会を設けている。 ・相談には迅速に対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	12	2		・月一回、気軽に参加できるようにお茶会を設けている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15		・予定は手紙でお知らせしている。 ・連絡帳やInstagram等も活用し、日々の様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15		・書類は必ず鍵付き書庫で管理している。 ・取り扱いについては研修会を行なっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	2	・夏まつりには地域の方にも参加してもらっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15		・利用者が毎日の利用ではないので、毎月曜日を定めて訓練を行なっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15		・食事やおやつを提供時には重々気を付けるように全職員に徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	2		・保護者様への周知までには至っていないのかもしれないので、お知らせしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		・定期的に研修を行なっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	14			